



合奏 1934年 個人蔵

台湾の女性日本画家
生誕100年記念

陳進展



陳進(1930年代)

2006年
4月5日(水)～5月14日(日)

休館日／4月10日(月)・17日(月)・24日(月)・5月1日(月)・8日(月)
開館時間／午前9時～午後5時(ただし、入館は4時30分まで)

主催／渋谷区立松濤美術館・読売新聞東京本社・美術館連絡協議会
特別協力／財団法人陳進記念藝術文化基金會・臺北市立美術館

後援／台北駐日經濟文化代表處・財団法人交流協会・
学校法人女子美術大学

協賛／花王株式会社

協力／JNA 日本アジア観光

入館料／一般 300円(240円)・小中学生 100円(80円)

※()内は団体10名以上、60歳以上の方及び障害者の方は無料。毎週土曜日は小中学生無料。

渋谷区立松濤美術館
The Shoto Museum of Art

東京都渋谷区松濤2-14-14 電話03-3465-9421
渋谷駅下車徒歩15分 京王井の頭線神泉駅下車徒歩5分

Chen Chin Exhibition

台湾の女性日本画家 生誕100年記念

陳進展

1895年、日本の植民地支配下に置かれて以後、今日まで、台湾は、政治的に中国大陆と異なった道を歩んだばかりでなく、文化・芸術の面でも独自の展開を遂げてきました。民主化・自由化が進む現在の台湾において、台湾人としての共通認識を持つ傾向が強まる中、美術の分野においても、「中国美術」ではなく「台湾美術」という考えが形成され、日本統治時代的美術に対する研究が進んでいます。陳進もまた、日本統治時代に活躍をはじめた画家の一人であり、二十世紀の台湾美術の発展に大きな足跡を残しました。

陳進は1907年、台湾の裕福な家庭に生まれ、台北第三高等女学校で日本画家郷原古統の教えを受けました。ついで、東京女子美術学校(現・女子美術大学)に留学。卒業後は、鏑木清方の門に入り、清方、伊東深水などに学びました。在学中に第一回台湾美術展に入選したのをはじめとし、1934年の第15回帝展に台湾女性として初入選、その後も帝展、文展での入選を重ねるなどして活躍しました。戦後の台湾では、中国の伝統的絵画である国画と東洋画(=日本画=膠彩画)との対立の中で制作に悩むことになります。しかし、結婚、そして母親となって以後は、家庭生活を主題に制作をつづけ、1998年に台北に歿するまで台湾女性画家の頂点として活躍しました。

「合奏」や「悠閒」に代表される前半生の作品は、伝統的な岩彩と膠を用いた日本画(膠彩画)技法により台湾の地方色豊かな女性像を描き、結婚後の後半生は、「みどりご(嬰兒)」や「花嫁(新娘)」のように妻、母親、家庭人として日々の生活を慈愛の眼差しをもって描きつづけました。

本展では、生誕百年を記念し、陳進の代表作約80点及び素描などを陳列します。本展を通して、その優れた画業を回顧するとともに、二十世紀において独自の道を切り開いてきた台湾絵画についても考察したく考えます。



編物(編織) 1940年 個人蔵



みどりご(嬰兒) 1950年 個人蔵



夜富士 1977年 個人蔵



慈愛(慈愛) 1988年 臺北市立美術館蔵



花嫁(新娘) 1983年 個人蔵



蘭(蘭花) 1951年 國立台灣美術館蔵

講演会

4月15日(土) 午後2時～
「陳進とその師たち」―「台展」デビュー前後―
島村 輝 氏 (女子美術大学教授)

ギャラリートーク

4月22日(土)、5月6日(土) いずれも午後2時～ 担当学芸員

美術映画会

4月16日(日) 午後2時～
上村松篁「花鳥を描く」/美術のみかたシリーズより「光と影」
5月7日(日) 午後2時～
東山魁夷「山雲濤声」唐招提寺障壁画の記録/
美術のみかたシリーズより「見えるままに描くまで」

美術相談

4月30日(日) 午後2時～4時
講師 宮田鈴輔(油彩画)、新出紀久雄(水彩画)
5月14日(日) 午後2時～4時
講師 内山 懋(油彩画)、大和屋 巖(水彩画)

次回展予告

《骨董誕生》2006年5月30日(火)～7月9日(日)



渋谷区立松濤美術館

THE SHOTO MUSEUM OF ART
東京都渋谷区松濤2-14-14 TEL 03-3465-9421
渋谷駅下車徒歩15分、京王井の頭線駅下車徒歩5分
<http://www.city.shibuya.tokyo.jp/>